



コロナウイルスに負けずに元気に過ごしてほしい

5月1日、JA松本ハイランド女性部筑北支部と同JA助けあい組織「夢あわせの会」筑北支部の5名のみなさんが来校され、麻績小学校に手作りのマスク140枚を寄贈していただきました。

女性部筑北支部と「夢あわせの会」のみなさんが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるマスク不足を補うとともに、



子どもたちに安心して過ごしてもらおうと作ってくださったそうです。4月中旬に支部役員対象にマスク作りの講習会を開き、講習会参加者が各地区の部員・会員に作り方を伝達し、総勢30名のみなさんが協力してマスクを作ってくださいました。そして、筑北



支部にある麻績小学校、筑北小学校に寄贈してくださいました。

「マスクを作りたくても、布やゴム紐が手に入らず、会員のみなさんのお家にあるものを集めて、全員に渡せる数を作りました。大きさやマスクの柄もそれぞれですが、子どもたちにコロナウイルスに負けずに元

気に過ごしてほしいという思いのこもったマスクです。」とマスクづくりの苦勞や子どもたちへの思いを話してくださいました。地域のみなさんが、子どもたちのことをとても大事に思ってくださいていることに改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

本日、各学級で子どもたちに一人一枚配付しました。ご家庭でも、地域のみなさんのご厚意について話題にさせていただきながら、お使いいただきますようお願いいたします。

互いに思い合う心を大切に

ー新型コロナウイルス感染症に関連した

偏見や差別は決して許されるものではありませんー

展望台には「ARIGATO」の文字が映し出され、青い光に照らされた東京タワー。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために非常事態宣言が発令された中で、医療関係者をはじめ、介護や福祉など、感染リスクと向き合いながらも最前線で働いている全ての人々に感謝を示すことを目的としたライトアップ企画です。感謝のライトアップは3月下旬に英ロンドンで始まり、米ニューヨークなどに広がりました。日本全国で同様の取り組みが行われています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療従事者とその家族に対する偏見や差別につながるような行為が多数報道されています。また、新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者・その家族に対しての誹謗中傷する行為も報告され問題となっています。

コロナ対策の最前線にたって頑張ってくださっている方々の努力によって、諸外国に比べて感染の拡大を防ぐことができている事実やそうした方々が、最も感染のリスクを背負い、自身も感染するかもしれないという不安と戦いながら、感染拡大防止のために細心の注意を払ってお仕事に従事してくださっていることに、私たちは感謝と敬意を表さなくてはならないところです。また、感染者・濃厚接触者・その家族の方々は、なりたくてその立場になったわけではありません。新型コロナウイルスに感染する可能性は私たち一人一人に同様にあるものです。どんなに気をつけていても目に見えないウイルスを完全にさけることはできません。悪いのは、感染したことではなく、新型コロナウイルスそのものの存在です。

新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者・濃厚接触者、医療従事者、その属する施設・機関等に対する誤解や偏見に基づく差別を行うことは断じて許されるものではありません。国民が一丸となって感染の拡大に立ち向かうべき今こそ、差別や偏見をなくし、お互いが思い合う心をもって、一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息のために、できることをしていくときです。本校の子どもたちが、この事態に直面することも考えられます。そうしたとき、だれに対してもやさしい思いやりの心で接して行ってほしいと思います。



